

## 平成29年度 まちづくり懇談会

### 米沢地区会場の要旨

平成29年10月6日（金） 19:00～20:30

米沢地区コミュニティセンター 参加者 73名

企画部長：お疲れのところ、また足元の悪い中まちづくり懇談会にご出席いただき、大変ありがとうございます。私は本日の進行を務めさせていただきます、企画部長の柿澤圭一と申します。どうぞよろしく願いいたします。それでは定刻となりましたので、米沢地区まちづくり懇談会を開始させていただきます。開会にあたりまして柳平市長より挨拶を申し上げます。

市長：改めましてこんばんは。10月に入りましたら一気に冷え込んでまいりまして、暖が恋しくなる季節になりました。季節の変わり目は体調を崩し易くなりますので、皆さんも体調管理に十分ご注意くださいと思います。今日は雨が本降りになりまして大変足元の悪い中、お疲れのところ大勢の皆様にもまちづくり懇談会にご出席いただきましてありがとうございます。今年のまちづくり懇談会は米沢地区が皮切りとなり、今日は第1回目でございます。私達も気合いを入れて臨みたいと思います。どうぞよろしく願いします。昨年は「大いに語ろう、茅野市の未来予想図」ということで、これからのまちづくりのポイント等について意見交換をさせていただきました。それも参考に来年度から始まる第5次茅野市総合計画を今策定中でございます。今日はその考え方等について意見交換ができればと思います。また後半では茅野市の魅力を発信していくのはもちろんですが、これからは各地区の魅力を地区から発信していく取組が私は絶対必要になると思っています。そんなことにつきまして意見交換ができればと思います。冒頭では皆さんで斉唱しました米澤村村歌、日本を代表する作詞家・作曲家が作ってくれた歌はそうはないと思っています。これも米沢にとっては大事な宝であり、歌うことで郷土を愛する気持ちが芽生えてくる、そんなことを感じて聞いております。それも踏まえて米沢の魅力とは何か、それをどんな風に発信していけばよいか意見交換できればと思います。コミュニティ運営協議会の会長さんをはじめ、運協の皆様には共同開催ということでお世話になっております。どうぞよろしく願いします。

企画部長：続きまして、このまちづくり懇談会は、米沢地区コミュニティ運営協議会と共催で実施をしております。それでは米沢地区コミュニティ運営協議会会長、田村政之様ご挨拶をお願いいたします。

米沢地区コミュニティ運営協議会会長：みなさんこんばんは。コミュニティ協議会、田村と申します。本日はお忙しいなか、また足元の悪いなかまちづくり懇談会に大勢の方がお集まりいただきましてありがとうございます。この通称「まち懇」は毎年行われておりますが、今年は「第5次茅野市総合計画に基づくこれからのまちづくり」がテーマです。これからの茅野市を

こうしたい、またはこうなってもらいたいという想いがあると思います。本日は市長さんはじめ、市の職員の方々がお見えになっておりますので、ざっくばらんにご意見を出していただいで有意義な懇談会にしていきたいと思いますので、皆さんよろしくお願ひします。

企画部長：ありがとうございます。それでは次に市の出席者を紹介させていただきます。まず樋口尚宏副市長です。

副市長：こんばんは。日頃お世話になっております。今日はよろしくお願ひいたします。

企画部長：続きまして山田利幸教育長です。

教育長：こんばんは。よろしくお願ひします。

企画部長：続きまして保科実早子中部保健福祉サービスセンター長です。

中部保健福祉サービスセンター長：こんばんは。よろしくお願ひします。

企画部長：続いて吉田貞雄米沢地区コミュニティセンター所長です。

米沢地区コミュニティセンター所長：こんばんは。お世話になります。

企画部長：岩崎研二地域戦略課長です。

地域戦略課長：こんばんは、岩崎です。よろしくお願ひします。

企画部長：小平雅文企画財政課長です。

企画財政課長：よろしくお願ひします。

企画部長：どうかよろしくお願ひいたします。続きまして本日ご出席の地元市議会議員のご紹介をさせていただきます。山岸正衛議員さんです。

山岸正衛議員：こんばんは。活発な意見交換をお願ひします。

企画部長：よろしくお願ひいたします。次に本日の日程とご発言の際のお願ひをいたします。この後、本日のテーマ「第5次茅野市総合計画に基づくこれからのまちづくり」と資料の説明

を市長が行います。その説明の後、テーマに関する意見交換を市長進行の下で8時頃まで行わせていただきます。その後今年から新しい試みでございますが、米沢地区の「地域の魅力とその活かし方」について、これも市長進行の下で8時半頃まで意見交換をさせていただきたいと思っております。その後まちづくりに関わる課題や身近な地域課題について意見交換をさせていただき、遅くとも9時頃までにはこの会を閉じさせていただきたいと思っております。なお、ご発言の際のお願いをいたします。後日文章等で回答させていただく場合もございますので、ご連絡が取れますよう、ご発言の際にはお住まいの集落名、あるいはお名前を言っていただくようご協力をお願いいたします。もう一つのお願いでございますが、本日ピンク色のアンケートをお配りしてあります。この会場アンケートのご協力をお願いいたします。お帰りの際にはアンケートに記入されたものを受付にご提出をお願いいたします。この後は懇談会の進行を市長お願いいたします。

市長：まず総合計画とは何ぞやということで若干ご説明をいたします。どの自治体にもあるわけですが、茅野市の最上位の計画ということで、長期概ね10年が多いですけど、都市形成の基本となります。その計画に基づいて色々な政策の根拠となるのが総合計画となります。今は今年までの第4次総合計画（市民プラン）でまちづくりを進めておりまして、来年度（平成30年度）からの10年間の計画となります。目指す将来像を組織化・体系化したものになります。この計画をするときには、時代背景が大事になってきます。昨年にも示しましたが今現在の大きな特徴は、人口減少と少子高齢化の進展ということでございます。人口減少自体、あるいはお年寄りが増えること自体はそんなに問題ではないと思っています。問題はどういう構成なのかということで、特に日本では生産年齢人口（15歳～65歳）の割合がどんどん減少している状況でございまして、人口自体が減ってもこの生産年齢人口がしっかり確保されていれば問題ないと思っております。例えば昭和30年代・40年代は今の人口よりも少なかったわけですけど、この生産年齢人口の割合が多かった時代でした。そうではなくして人口減少が進む、少子高齢化が進む、その中で生産年齢人口が減っていくのは、様々な活動において活力がなくなってしまう、そんなことが一番懸念される、だけど残念ながらそういう時代にある、ということをおまじえさせていただきます。お手元の中に米沢地区の人口動態も入っておりますので、後ほど参考にさせていただければと思います。先ほど言いましたように人口減少、少子高齢化の中では労働力不足、作業員担い手の高齢化等で経済活動が停滞してしまう。また地区役員の高齢化、担い手不足で地域コミュニティ活動が停滞してしまう。また独居老人等が増え、生活の孤立化などが進んでしまう。今まで以上に自助公助でお互いを助け合う社会を作っていかなければいけないと思っています。昔は3世代・4世代が住んでいて、じいちゃんばあちゃんを子供達、孫達が支えあった。今は残念ながらそういう家庭は少なくなってきました。家庭力が少なくなっている中では地域という単位でいかに支え合うかが、これから10年大きなポイントになってくると思います。

そんなことを踏まえてこれは将来像の案でございますが、第5次総合計画で目指す将来像

「八ヶ岳の自然、人、技、歴史が織りなす やさしさと活力あるまち」ということで案を示させております。昨日も市民の皆さんと意見交換をさせていただいて、様々な意見をいただいているところですけど、これをベースにより茅野市らしい、この10年間を取り組んでいくものを考えていきたいと思っております。若干ここに込めた想いについてご説明させていただきます。このキャッチコピーに込めた想いですが、八ヶ岳の雄大な自然が茅野市らしくある象徴だと思っております。先ほどの米澤村村歌にも「八ヶ岳」「蓼科」の言葉が入っています。ちなみに茅野市には13の小中学校がありますが、校歌にどのような言葉が入っているか調べました。1校だけ「八ヶ岳」の言葉が入っていませんでした。あとは「蓼科」はそんなには入っていませんけど、「八ヶ岳」は全ての校歌に入っていました。やはり茅野市にとって「八ヶ岳」は象徴だと思っております。そして「人」、これは人と人との繋がり、コミュニティ。そうは言っても茅野市のコミュニティはしっかりしています。そこには人がいる、やはり人を大事にしていきたいという想い。それから「技」、これは産業、稼ぎ出す、活力の源。そこで生活していく上には産業がなくてははいけません。この技を大切にしていきたい。そして「歴史」、縄文文化、御柱等の伝統、生活様式これが茅野市には息づいている。この「織りなす」にはご意見があるかと思っておりますけど、縦糸と横糸がしっかりと紡がれて一つの丈夫な布ができるわけですし、私はこの「織りなす」という言葉は良いと思っています。そういうしっかりとした土台の中で「やさしさと活力」が満ち溢れていく未来を描いております。この「やさしさと活力」ですけど、茅野市のひとづくりのテーマであります「たくましく・やさしい・夢のある子ども」の中で、活力はたくましさであり、やさしさだと思っています。「たくましくなければ生きていけない、優しくなければ生きる資格がない」そんな想いもここにに入れていきたいと思っております。これにつきましてもご意見いただきたいと思っております。

第5次総合計画の背景のざっくりとした部分でございます。先ほどの将来像も「八ヶ岳の自然、人、技、歴史が織りなす やさしさと活力あるまち」これを10年後に目指そうと。今日の一番のポイントになりますが、それをしていくためのまちづくりの基本指針で5点挙げさせてもらいました。これは後ほど一つ一つお話させていただきます。ここは理念的なものになります。それを実際に形にしていくために政策が出てまいります。一つのジャンルごとにしました。一つが「保健・医療・福祉」の分野、一つが「環境・市民生活」の分野、一つが「子育て・教育・文化」の分野、一つが「産業経済」の分野、一つが「都市基盤」の分野、そしてそれを下支えする「行政経営」があると、こんな組立を考えています。それぞれの基に、実際に更にこの政策を形作る計画の策定をしているところであります。こういった区分全てを横串に刺す横断プロジェクトとしまして、「人口減少・少子化対策の推進」これは総合戦略という計画で進めております。それから「災害に強い防災のまち」を作っていくかなくてはならない防災計画等が入ってまいります。また今年も縄文プロジェクト「八ヶ岳縄文ライフフェスティバル」をやっていますが、茅野市は一つの大きな宝である「縄文を活かしたまちづくり」をしていきたい。またこれからグローバル化等が進展してまいります。これにどう対応していくかという横断プロジェクトを横串として刺していきたい、このような背景の案を今進めております。

先ほど言いましたまちづくりの基本指針5つを挙げさせていただきました。昨年もこの部分についての意見交換を主にしましたが、これから10年間のポイントになることについてお話しします。一つが「地域やあらゆる世代で支え合う仕組みづくり」を作っていかななくてはいけないと思います。高齢者の見守り、子どもの見守り・子育て支援、雪かきや買い物といった生活支援、自主防災組織活動の活性化等を図っていかなければいけない、そして支えあう仕組みを作る。その中で一つのポイントとなるのが各区・自治会における公民館を活用した居場所作りが必要になるだろう、是非していきたいと思います。今までは家に帰ればじいちゃんばあちゃんが居たりする環境がありましたが、核家族が進み父さん母さんが働きに出ていて、帰ってきて誰もいない家庭が増えてきている。そういうときにそれぞれの公民館に帰ればそこに村のじいちゃんばあちゃんが居る、そんな場所として公民館を活用していければより良いコミュニティができると思っています。それから「まちの活力の向上を図る仕組みづくり」は、そこで生活していかなければいけない、稼いで食っていかなければいけないので、その仕組みをどう作っていくか。今までは継続して且つ今までにない仕組み作りをしていかななくてはいけないと思います。今、茅野市でも「DMO」として観光を切り口としたまちづくりを進めています。観光業した観光地ではなくして、市民が住む茅野市全体を観光という形で活性化させていく、そこに交流人口を呼び込む仕組みを作りたいと思います。また茅野市は製造業が盛んです。諏訪圏域での製造品の出荷額は茅野市が一番です。長野県で見ても高い位置にあります。こういったものづくり産業も育成していかななくてはいけない。縄文遺産や豊かな自然環境といった茅野市の強み、それを活かしたまちづくりは後段に触れます地域の魅力にも繋がってくるかと思えます。そんな活力の向上を図る新たな仕組み展開をしていきたい。その中で一つの核になるのが来年の4月公立化する諏訪東京理科大学、ここをいかに連携していくか。茅野市民としたらそこをいかに活用・利用していくかで、アイデアを引っ張り出すことができるかどうかだと思います。これからスタートする公立大学が10年後魅力ある大学として、理科大に来た学生が「諏訪圏域は面白いからそこで就職したい」と思えるようなまちづくりをしていかなければ、受け入れる私達の責任といていけないと思います。一つ分かり易い取組として諏訪東京理科大学を活用していく仕組みを作っていかななくてはいけないと思います。3点目は「人」になります。特に少子化が進んでいくと、子供達をどう教育していくかが将来の財産をどう築いていくかになります。茅野市では読書活動を進めています。この読書活動のおかげで物事を考える力が付いてきています。これからグローバル社会・IT社会の中では英語教育やICT教育をきちんとしていかなければいけない。これも他市より先駆けて茅野市は本年度から進めております。また縄文科教育も3年目になります。これも非常に良い教育、取組だと思います。簡単に言うと「縄文」というテーマで子供達にいろんな取組をしてもらおうのですが、何でもできてしまう。その中で斬新なアイデアや考える力が付いてきている気がしています。こういった教育を進める一つ仕組みとなるのが幼保小連携、小中一貫教育。それをしっかりとこの10年で定着させるときだと思います。そして4点目が「社会基盤」です。実際に生活していく道路や上下水道を整備していかななくてはいけない。しかしこれからの時代、なかなか新しくするわけにはいきま

せん。しっかりと長寿命化、耐震化を図っていく。しかし必要な豊かな環境にはしていかなければいけない。保育園・小中学校も建て替えるもの、リノベーションというまるっきり新しいものぐらいの改築をして対応するもの、そのメリハリを付けて限られた財源を有効に使い、しかし周りの豊かな環境は提供する、そんな取組。そして恵まれた自然、景観の保全、これは八ヶ岳の雄大な自然がまさに茅野市の魅力として出てくるので、それを守って後世に残していく取組が必要。それと私が市長となって思ったことですが茅野市の行政としての防災センターは残念ながら非常に貧弱です。自主防災組織で大きい意味で言うとソフトの環境は皆さんのおかげで整ってきましたが、大きい災害があったときに肝心の市の防災拠点がどうなるか、早急にこの10年の中で整備していかななくてはいけない問題だと思います。このような「安全・安心・豊かな暮らしを支える基盤づくり」が必要になってくる。それも豪華ではなく質素であっても機能的な社会基盤を作っていかななくてはいけないと考えています。そうして今までやってきたことを相対的にみて、市民とのやり取りの中でどう形にしていくか、これが「あらゆる主体による協働のまちづくり」でございます。茅野市ではパートナーシップのまちづくりを20年前から始めています。スタートしたときは、福祉や教育、環境を市民の皆さんとの活動団体との協働から始まりました。それが連綿と続いてきている。10年前にコミュニティ運営協議会を作ってください、今度は地域の皆さんとの協働をどうすれば良いかと10年間続けてまいりました。これが第2ステージです。そしてこれからの10年はもちろん第1・第2ステージと続いてまいりますが、さらにあらゆる主体と協働をしていく。それは市と団体だけでなく、団体同士の連携という協働もあると思っています。そうしたまちづくりをしていくことで、支え合うまちづくりにしていかななくてはいけない。その拠点として「ゆいわーく茅野」では多くの団体・個人の皆さんが活動を開始してくれています。それをさらに発展させていきたいと思っています。この5つの基本指針に沿いまして、先ほど言いましたそれぞれの政策分野、それに繋がる基本計画を今策定しております。皆さんも関心を持ってこれからの取組に注意をしていただき、いつでも構いませんのでご意見をいただければと思います。そんなことで市民の皆さんと「やさしさ」と「活力」あるまちづくりを進めていきたいと思っています。15分で説明ができましたが、分かりにくかったですでしょうか。これから意見交換をしてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

全てに対してご自由にご意見いただければと思いますが、一応基本指針の5点に沿ってご意見をいただければと思いますが、それに限らずどの部分でもご発言していただいてもかまいません。一応メインはこの5点について意見交換をしていければと思いますので、よろしくお願いいたします。全体をとおして、お聞きになりたいこと、ご質問等ございますか。いつでもかまいませんのでご発言ください。

この1点目の「地域やあらゆる世代で支え合う仕組みづくり」ということで一つの指針を決めさせていただきました。具体的には公民館を活用した取組ができるか否か、それに関しては皆さんどんなご意見をお持ちでしょうか。昔は各公民館に小遣いさんがいたような気がします。私達が子供の頃、世話をやいてくれた人の記憶がありますがそういう形なのか、それともそこ

の元気な高齢者の皆さんがサロンとして使っていただいて、そこを広くいろんな人達がきて歓談できる場所になればいいなと思います。最近では子供の貧困が問題になって「こどもカフェ」をあちこちでやっていますが、それが日常的に公民館の中で何らかの交流・経験ができる場所であったり、ざっくりとそんなイメージでありますが、是非ご意見いただきたいと思います。支え合う仕組みをつくるのにおいて私の意見に限らず、「こんな取組ができるのでは」というのは。

市民：実は春の休み、夏の休み、冬の休みに米沢の寺子屋教室をやるのに係わっていますが、そういうような形が例えば埴原田なり塩沢なり北大塩なりで恒常的に行われるようになれば、それは必ずしも教員経験の有無ではなく子供の時代を経験した手の空いた大人達が公民館でやっていく形ができていけばいいなと思います。ただ問題になるのが子供を預かるときにどうしても責任の問題が出てきます。この部分をどんな形で了解事項を作ってクリアしていくかが大きな課題だと思います。それだけでなくここに出てくるいろいろな問題が責任との関わりでなかなか進まない部分があると思いますので、それについて指針みたいなものを示していただくのが行政のところで、「こんな形があるのでは」とサポートしていただけるとありがたいと思います。

市長：ありがとうございます。まさにそこが一番ネックになってくると思います。「預かる」という形態ではなく、そこに「子供が遊びにきた」という暗黙の了解ではないですが、そういう仕組みでないと、預かるとなるとお金を貰わないととても預かれませんか。でもその仕組みができるか。本当にありがとうございます。

市民：今おっしゃったのは、こども館みたいな形で「屋根のある公園」のような意識のものが醸成されなければならないということですね。

市長：そうですね。地区にはこども館がありますが、実際に地域に根ざしたとえば私は区・自治会の単位なのかと。当然地区こども館でも遊んで、けど本当によりどころになるのは区・自治会の公民館もそんなスペース・環境があれば良いかと。小学校のお子さんをお持ちの方、もしくは学校の先生でもよいですが、当の子供達はそういう意識はあるのでしょうか。そんなところがあっても行かないような感覚なのか、どんなものなのでしょう。

市民：子供達ですが、特に米沢地区の感じは学校に隣接しているということもあり、よく使わせてもらっています。私がたまに寄ると鈴なりに子供達を通るし、メイトさん達が非常に子供達の自主性を尊重していただいているので、締め付ける形でやらされている感はなく、自分のやりたいことを自由にやれる、本当に「屋根のある公園」という感覚で利用させていただいてありがたいです。メイトさんが子供のことをよく知ってくださっているので、話を聞くと私達

の知らない情報であったり、先日も教育実習生が来たのですが私達は何年も前の子供のことは知りませんが、メイトさん達は昔こども館に来ていた子供達だと知っていて、そんなことまで知っていて本当に助かっています。

市長：ありがとうございます。今、私は非常にいいなと思いました。これも米沢の魅力ですかね。基本指針の①で他に何かございますか。また何か気付きましたらご発言をお願いします。

②は「まちの活力の向上を図る仕組みづくり」ということで、公立化する理科大学を使っていこうという話をさせていただきましたが、これに限らずこの部分でこうしたら良いという発言ございましたらどうぞ。この部分は後ほどの地域の魅力とも係わってきますので、そこで発言いただいてもよろしいかと思えます。

教育の問題でございます。これが一つの大きな柱になってくると思えます。これは教育長に小中一貫も含めまして現状報告をお願いします。

教育長：それでは小中一貫、幼保小連携教育の話をしたしたいと思います。今年度4月に小中一貫教育がスタートしました。具体的にどんなことをやっているかは米沢の校長先生も北中の校長先生もいますのでお願いしてもらいたいと思います。小中一貫と言ったときに、子供がどう育つかという視点から見たときに、いろんな課題もあるし茅野市の予算もあると思えます。茅野市の場合、校舎が別々で各小学校が別々で一つの中学校で学んでいくという中で一貫をやっています。一方で校舎を一ヶ所に固めてやっている小中一貫校もあります。それらで子供が育つという視点から見たときに、校舎を一体にする。例えば米沢小・永明小・豊平小も入れてしまって一つの校舎にするやり方を頭に思い浮かべてみてください。そうすると通学路が遠くなってしまう、地域と離れてしまい学校の敷居が高くなってますます遠くなってしまう、地域の方も入れないし、地域の特色も出せないというような問題点が大きく出てくると思えます。今、一体型といった校舎を一つにした小中一貫校はあまり良い方向ではないという話を聞くところがあります。ただ良いところはいつも顔を見ている、行事を一緒にできる、そんなところです。茅野市のやっている学校が別々でやっている小中一貫校で、課題は行事が簡単にできない、直接顔を見られない、何かあればバスで移動しなくてはいけない。それを少しでも解消しようということで11月からテレビ会議システムを全学校に入れて、できるだけテレビ会議を利用して子供達が顔を見られる、一緒に授業ができることになります。もう一つは、一番は子供を育てるということで、中身を育てなくてはいけないということで、小学校と中学校で子供を教える方法、学んでいく方法を一本の筋で通していこう、ギャップがないようにするという、豊かな学び合いということです。生徒指導も保育園、小学校、中学校と繋げていこうと茅野市の特色としてやっています。具体的には米沢小、北部中ではどんな感じが簡単にお願ひします。

市民：私は昨年度より米沢小学校にお世話になっております。今6年生の担任をしております。



昨年は5年生の担任なのですが、幼保小連携ということで5年生が中心となりまして保育園児達と他の園から来られる子供さんと交流を進めています。本年度は先日永小・永中文化祭に合わせて伺わせていただきまして、小学校さんと交流したり中学校さんの文化祭に参加させていただいたりしてきました。実際に永明中に進学しない北部中の子供さん達も小中学生と触れ合うことで一体感や中学校への希望を持てたり、永明小さんのお子さんと一緒にいるというイメージが具体的に見えたりと、そのような場面を作らせていただいています。北部中にもお伺いするというので、2つに分かれてしまうので、大変だったり残念な部分もあるのですが、理解をいただいていることはとてもありがたいと思います。英語教育の方で小中一貫ではないのですが、茅野市の方では先行実施ということで今年度から時間割等工夫して秋先生をお招きして学校の方に回ってきていただいて、子供達もですが職員にこれからどういうふうに英語教育をしていけばよいか、具体的に見せていただいています。これからだんだん実践していこうという取組をしています。先日の運動会のときには中学校の生徒さんが来てくださり、素晴らしい走りを見せていただきました。離れているんですけど、少しずつそのような機会をいただいているということでありがたいです。できればバスを使って行くということで、実費を家庭から出していただいているので、その部分を改善していただければと思います。

市民（校長）：こんばんは。今の小学校の反対側が中学校なんですけど、小中の交流ということで永明中は永明中、北部中は北部中なりに交流会をしたり、行事のお手伝いに行ったり招待したりということで、小中の連携を図っています。また子供達の今「学校園」と呼んでいるのですが、「学校園」としての小中学校の塊をどういうふうに進行させるかという取組を考えている最中でして、小中一貫を考えたときに2つ意味があると思います。一つは「一貫」というと「流れの一貫性」を考えますが、その流れの一貫性については外側のワードとして「国語の一貫性」とか「算数・数学の一貫性」とか現場の教員達が努力して作ってきて、それに乗っかりながら図っているところです。もう一つの側面は小中の塊として捉えるということでして、その塊は何に基づいているかという地域に基づいています。なので小中一貫の土台には地域に根ざした教育や土台というものが存在していて、そこに住む同じ子供達という考え方を大事にしたいと思います。そこに「各中学校区園」と呼んでいます。それぞれの塊が目標を持って目標を共通にして取り組んでいます。ちなみに北部中学校園では「ふるさとに誇りを持ち、夢に向かってたくましく生き抜く生徒」ということで、先ほどの地域に根ざした土台を大事にしていこうとしています。例えば、北部中学校では先ほどの市長さんの話の1番「共に生きる」に関係しますが、「親水公園」という広い公園があります。あそこは保育園を終わった方が寄ってくるのですが、最初はお母さん方は中学校に入ってはいけないと遠慮していましたが、入ってくださいと言って入ってもらいました。ちょうど中学生の下校と重なると保育園の子達が中学生と一緒に遊んで、その光景は一つの地域の中に幼い子・小学生・中学生、できればそこに大人・お年寄りが一つの共同体として役割があると感じています。今、理想を求めて実践を繰り返しながら小中一貫の在る姿を求めながらやっているところであります。

市長：ありがとうございました。今の話を聞きながら教育「生きる力を育む仕組みづくり」についてのご意見ございましたらどうぞ。

ひと通り進めさせていただいて、お気付きのところでお話をいただきたいと思います。次の「安全・安心・豊かな暮らしを支える社会基盤づくり」でございます。社会基盤は本当に大事なインフラということになります。これから第一声が厳しいなかにおいて、まちの中を見ましても昭和40年代頃いろんな設備を作った。今度はそれを維持・管理していかなくてはならない。そこには大きな費用がかかってまいります。昨年お話をさせていただきましたが、理想のメンテナンスをしていくと年間二十数億かけていかないと維持管理ができないのですが、実際にやったのは十数億で十億ぐらひは不足しています。そういう中でガタガタの道では困るし、上下水道もきちんとしていかななくてはならないし、保育園や小中学校も維持していかななくてはならない、そういう時代になってまいります。皆様の理解を得て知恵を出して、それでも良い形にしていきたいと思っています。普段生活をされていまして、お気付きの点等ございましたらご発言していただきたいと思います。消防活動をしていてお気付きの点ございませんか。

市民：今言われた「安全・安心・豊かな暮らしを支える社会基盤づくり」というのは、茅野市というのはほとんど山を背負ったような大変危険なまちということで、各地区に防災組織があるわけですが、防災センターの整備検討の件で言われたことと違いますけど、防災センターという市で行う防災センターというものは、確かに何か災害があったときにライフラインとかその他の整備をいかに早く立ち上げて市民の生活を安定化させるということが中心だと思いますが、各地区にある防災組織は各地区の身近なところにあるものなので、地域の中で起きた災害の細かいところまで網羅できる状態のところまであるのですが、それに対する地域の中の組織として年2回防災訓練はやりますが、それ以外にも何かあったときの対策や対応を地域で砕いた中で具体的なやり方をしていった方が良いと思います。それに対して市の方も完全に網羅できるような組織づくりをしていただいて、これから先懸念されている大地震問題や土砂災害がこのところ続いた大雨で災害が増えています。こういったことに必ず対応できるような組織を整備していただいて、茅野市の各家庭生活の安全・安心を守っていただければありがたいと思います。

市長：ありがとうございます。防災にはソフト・ハードの面で整備していかななくてはならない中で、ソフトの面ではそれぞれの区・自治会さんに自主防災組織をしていただいておりますが、できれば専任の防災リーダーという方を設置していただいて、有事の際に機動的に連携が取れる体制にしておかななくてはならない課題がございます。そんなことで次年度以降どんな形が良いか検討中ですが、各区・自治会に防災リーダー的な方を設置していくという補助をどうできるかを考えております。そういった方が複数年防災リーダーとして位置づけていただいて、ときの区長さんあるいは区内の皆さんと連携をとって動いていく、当然消防団とも連携を

とっていける。そんな形ができればネットワークづくりになるのかなと思っております。

⑤「あらゆる主体による協働のまちづくりに向けた仕組みづくり」ということで、その拠点として「ゆいわーく茅野」がひと・まちプラザの中に設置させていただきました。そこで多くの団体の皆さん、あるいは個人で参加される皆さん等含めまして、あらゆる主体による協働のまちづくりに向けた取組が始まっています。皆さん、ゆいわーく茅野、あるいはひと・まちプラザには1回ぐらいは行かれましたか？是非食事もできますので。ついこの間、永明小学校の皆さんと共同で素敵なテラスもできました。テラスができた途端寒くなってしまって、なかなか外でという感じではないですが、是非フラッと寄っていただいても違和感ございませんし、覗いていただきたいと思います。区・自治会自体も協働の仕組みだと思っています。そんな茅野市の良いところをさらに広めてまいりたい。そうした中で気付かないことをお互いに気付き合う、そんな社会を作っていきたい。それが最初の①にありましたみんなが支え合う社会を作っていく、そのベースになっていくと思っています。協働のまちづくりにつきまして何かご発言ありましたらどうぞ。

それでは8時という時間がきましたので、第5次総に基づくまちづくりにつきましてはここで一旦収めさせていただきます。この後の「地域の魅力とその活かし方」にも係わってくる部分があるかと思えます。そちらで活発なご発言をいただきたいと思えます。

それでは2点目の「地域の魅力とその活かし方」につきまして説明はセンター長お願いします。

米沢地区コミュニティセンター所長：諏訪の地域の魅力とその活かし方を考える目的、あるいは視点等について説明させていただきます。今ご覧いただいているのは10年前に策定しました米沢地域の福祉行動計画いわゆる米沢ビーナスプランでございます。伝統と財産の継承という目標を掲げております。先ほど市の新しい第5次総合計画の説明にもありました。お手元のプリントに米沢の将来人口の予測もありますが、今後総人口の減少、高齢化、年少人口の減少といった大きな課題の前に、一つの地域だけではこの先の状況は変えられないといった諦めにも似た意識が地域の方に定着してしまうのを避けなければならないと考えています。私達の地域には先人の残した遺跡や遺産、受け継いできました伝統、祭や文化、生活に密着した衣食住の習慣、知恵や工夫があります。これは多くの大人や子供が語り繋いできたものであります。このような地域の魅力や財産とも言える資源は生活している中では当たり前になる感覚でありまして、改めて意識しないもの、または他の文化をあまり知らないということもあります。しかし新たに住まわれた方や外から見れば特別に映るものもしばしばあります。お手元の資料に地域の資源ということで一例を並べてございますが、この他に入っていないものとすれば田園風景。また里山の恵みや郷土食の風物詩、歴史的建築物や人物もその地域の魅力でございます。今ここに掲げてあります一例の他にも子供や孫の世代に残したいもの、伝えたいものがあるかと思えます。例えば子供が地元を離れると言っても、その前に学校では学ぶことのできない地域の良さ、故郷において、そうしたものを伝えることによってやがては故郷に戻ってくる下地

になるかと思えます。ここでのポイントとしましては、今住んでいる私達はその魅力を共通の認識とし、私達自身も無理をせず楽しむ姿勢で子供と係わりながら、地域に愛着と誇りを持ち続ける、そういうことだと思います。そのために何ができるのか、そこから見える課題にはどうしたらよいのか、しかし高齢者が増えるということは知恵が増えるということであり、まさに究極の財産とも言えます。米沢の地域や各区の将来の在り方を唱えるにあたりまして、地域の魅力、地域資源というフィルターを通して、知恵を出し合いながら資源を備えたり、見方を変えたり、新たな魅力や生まれた資源を引き出し、そして地域内外に発信していくことで米沢ならではの新たなビジネスや活力に繋ぐかもしれません。本日は将来の方向性についてざっくばらんに話し合うきっかけにさせていただければということで、よろしくお願いします。

市長：センター長の方からお話をいただきました。当たり前ですけど、米沢に住んでいる皆さんは米沢のことを大好きで誇りに思っていると思います。私は豊平ですから豊平のことが大好きですし、豊平のことを誇りに思っています。ただ自分の中で思っているだけではなくして、地域全体で共有していく、それを積極的に外に発信していくことが非常に大切になってくると思います。そんな観点で米沢の魅力は何か、それをどう発信していこうか、そんなことで是非皆さんも長く米沢に携わってきた人達ばかりだと思いますので、ご意見いただければと思います。何のこともかまいません。資料にある題材をテーマにしてもかまいませんし、それ以外でもかまいません。それと地域福祉行動計画を作っておりました。題名は地域福祉行動計画ですけれども、当時から私は福祉に限らずまちづくり計画だと思って係わらせていただきました。将来的には地域福祉行動計画が米沢のまちづくり計画になって、こんなことをもっと進めていこうとなっていくのかな、していければなと思っているところでございます。是非積極的なご意見を。米沢地区には大清水があって、そこに隣接して駒形遺跡がある。個人的にはそこらへんはもっと手を入れていっても良いのかなという気がしていますし、多分5千年前の縄文人も大清水の水を飲んで、駒形遺跡で俵かまっていたのかなと情景を思い起こします。そうしますと5千年後にも伝えていきたいという想いもあるわけですし、また吉田山が市民の森として非常に積極的に活性されています。本当はどうでしょうか？地元の米沢の子供達がわんさかそこに行けるという風でもないのかな。野山で遊んだ私からするとああいうところでいろんな遊びをもっとしてくれたらなど、そんな取組をしていければと、そんなことが一つの行動になると思います。

市民：まちづくり懇談会についてですけど、出席者が何名だとか、埴原田で何名だとかのデータはとってありますか。と言うのも私達は、積極的にまち懇に出て意見を言ってみんなで話をしようねと言って、強制的ではないですがお願いして出ています。後で数字を公表しなくても良いのですが、「何人中北大塩では何人でたね、埴原田では何人出たね、この地域は熱意があるね」とか。データを取っているのですかという質問が一つです。多分取ってはないと思いますが、このアンケートに「集落はどこですか」と丸を付けるところがあればデータが取れると

思います。それと別の話で重箱の隅をつつくような話ですみませんが、鹿ネットの材料や補修についてなんですが、新設のときは補助が出るけれど修理のときは地元負担だと聞いたのですが、そこらへんはここでは返答できないと思いますので、そこを検討していただきたいし、修理についても補助が出るような対応をお願いしたいです。

市長：この後の地域課題のテーマかと思いますがお答えいたします。まず参加者の人数は分かります。米沢地区で何人かは10年前から分かりますが、おっしゃるとおり区ごとのデータは取ってありません。あえてそこまでやると脅迫しているんじゃないかなという思いがあって取ってこなかったと思いますが、そのへんの考え方はどうでしょうか。

企画部長：このまちづくり懇談会が地区ごとの単位でやっておりますので、米沢なら米沢地区の中での様々な課題をやっていく、そういった話で進めさせていただいておりますので、区・自治会ごとの参加率はどうかというそこまでは市長が申し上げたとおり数を出すのは控えてきたところがあります。ただ今回、区や自治会は別ですがアンケートの中で自分の地区に魅力がありますかと聞いてありますので、米沢地区の皆さんがこの地域をどう考えているか、地区全体としては集計を取らせていただきたいと思ひまして、このようなアンケートにさせていただいております。その細かい更なる単位まで掘り下げてしまうといろいろと出てくると思います。

市長：そんなところでご理解をいただければと思います。毎回多く参加していただきありがとうございます。鹿ネットのことはまたきちんと担当課を通してお答えしますのでよろしくお願ひします。今その話が出ましたのでこれも魅力の一つなのかなと思いますが、鹿ネットは設置はしていただきましたが、緩衝帯がない状況でございまして、私は効果がない気がしています。ここで県の森林税の更新がありましたけれども、そういう緩衝帯の整備においても是非使うような形にするような要望もしてあります。多分そんな方向が出てくるかと思ひます。そうしますと防護柵を緩衝帯にすることで防護柵自体の管理もしやすくなりますし、また明るいと鹿が出てこないということでより効果が上がるのではないかと考えております。補修の費用につきましては担当課の方から回答いたしますのでよろしくお願ひします。

市民：いつもありがとうございます。さっきの市長の④とも関連した内容でお話させていただきますが、今年も全国各地で土砂災害が発生しております。直接現場へ行って確認したわけはありませんが、テレビで見た限り土砂崩れしている山林が混んでいるように見受けられました。つまり整備があまりされていないように見えました。そんなこともありまして、埴原田では、今年の7月に「里山整備推進協議会」というのを立ち上げまして、先ほど市長からお話がありましたように県の森林税とか市の補助金を使った整備をすることを、具体的には今年の11月頃から森林組合さんの方が入って作業が行われることになっています。引き続き来年度、再来年度と広げて埴原田の里山全体をやりたいと思ひているのですが、ここで進めていくときに

地権者の方を市の農林課の方で調べていただいて、それぞれ分かる範囲で我々が直接地権者の方にお話して同意書を得るような格好を取っていますが、どこに住んでいるか分からない方が結構います。市の農林課の方も一生懸命やってくれて、それぞれのところを探していただいているのですが、我々には分かっても住所は教えてもらえないです。個人情報云々のことがあるのでしょうか、できれば我々から直接その方と連絡をしたいというのが一つあります。そんなことが進めていく上では支障となっています。ご存じの様に、山に入れば管理されている森林はほとんどありません。自分の家の山がどこにあるか、あるいは昔は畑だったけど今は植林してどうなっているか分からない方がほとんどだと思います。そういうところから何とかやらなくてはならない。自然を守るという意味からもやっていきたいので、これからも是非ご協力よろしくお願いします。

市長：ありがとうございます。おっしゃるように山が崩れるのを見ますと、整備されていない状況がよく分かります。二十何年でしたか、柏原山で大きな崩落がありましたけれども、本当に密集の状態でした。そういう意味では適度な間伐をしていかななくてはならない。それをやるにはおっしゃるように地権者の同意が必要になってきますが、どこにいるかわからない。本当によく状況は分かります。その中で情報ですけど、本人の同意を貰えれば良いのですがそうではなくしてやると、個人情報の問題に引っかかってくる。これは山林ばかりではなくて、空家になっていてその草がすごくてアメリカシロヒトリが出て、何とかしろよと言うのもそんなに簡単にはいかないんですね。また農林課の方と相談しまして、良い形で進めていけるように取組をしておりますので、これからも宜しくお願いいたします。山、林がすっきりすればそれも魅力になりますし、防災面でも安心できるそんな環境ができるかと思います。

市民：今、協力してくれています。非難しているわけではありませんので。感謝しています。

市長：ありがとうございます、伝えておきます。魅力をどう活かすかというのをテーマにしていますが、「米沢の魅力って何？一言で言ってよ」と言ったら何と答えますか？いっぱいあってそれぞれですが、周りから見ていると米沢というと大清水なんですね。大清水を含めて水が豊かなイメージが頭に浮かびますけど、その水で美味しいブランド米もできているでしょう。この問題はこれからコミュニティ運営協議会を通しまして、米沢の魅力作りを是非進めていただきたいと思います。それぞれの地区で特徴的な取組も広がってきています。玉川では米沢のコミュニティ祭りと同じ日でしたけれども、玉川のコミュニティ祭りを「けやきフェス」という名前で、玉川小学校の前のケヤキ並木を歩行者天国にして学校と一体になって、物品を販売したり等の取組をしております、非常に良い雰囲気を出しています。また金沢地区では、金沢小学校の校章が梅なんですね。何で金沢小の校章が梅かと言うと昔「甲州街道」が「梅街道」だったと。そんな話を聞いて、だったら梅街道を復活しようよというやり取りの中で5年ぐらいかかりましたが「梅プロジェクト」が今年からスタートしています。10年、20

年、30年かかるかもしれないですけど金沢地区が梅の里になれば、これも一つの魅力に繋がるかと。それぞれの地区ごとで取組が始まっていますので、ぜひ米沢地区も米沢の魅力の取組をしていただければ行政の方もしっかり応援していきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

これからはその魅力づくりも含めまして、抱えている地域の課題等もあると思っております。そこまで範囲を広げまして皆様のご意見をいただきたいと思っております。

市民：いつもありがとうございます。実は今年埴原田で市の防災訓練がございました。そのときに埴原田からコミュニティに入る無線が全然入らないです。鋳物師屋さんも北大塩さんも塩沢さんもほとんど入らない状態。この間区長会の前にもう一回試験ということでやったんですが片方が入って聞けても片方が入らない。そのあたりも拠点としてコミュニティが動くのであればその整備は早急にしてもらいたいです。吉田所長さんもお存じなのでそこも含めてお願いします。

市長：その件は私の方にも報告を受けております。簡単に言いますと中継局をどこに建てるかということでございまして、今茅野には晴ヶ峰に1本、永明寺山に1本、車山に1本の計3本です。多分米沢筋のことを考えると小泉山とかにあれば入るのですが、国の方から3本しか認めてもらえていません。ですのでこれ以上中継局を出せることができず、どうするかということで、今どういう形が良いのか検討して、また早急に実習していきたいですけれども、公民館にアンテナを設置して感度を良くすることができるということですので、今はその方向で調整していますので、また具体的な話をさせていただきます。それと移動系の無線の使い勝手が悪いということで、私もやってみて機能はたくさんあるのでしょうけど投げ付け的なところがありまして、これにつきましても音量の問題も含めて手当をするようにメーカーと話をしております。

市民：その件で区長さまからその話がありまして思ったのが、その無線を購入するときにはそういうことを確認してから普通は購入するはずなんです。それをしないということは自分のお金を使わないから無責任なことで、我々からするととんでもないと。こんな物は買った本人が弁償しろと言いたいくらい。森林組合だってちゃんと不正した県の職員には責任で金額を請求しているじゃないですか。普通一般の人だったら、自分の家で使ってみて使えたら買いますよ。使えるか使えないかの物を買って、それが100円、200円なら良いですが恐らく何百万とかかかっていると思います。自分の懐が痛くないからそういう考えで進めるわけであって、とんでもない話です。厳しく罰してください。

市長：お怒りはごもっともだと思いますし、当然私もそういうことをやって購入したと思っていました。多分いろんな想定をしてまではやってないと思います。機能は本当にいろんな素晴らしい機能がありまして、いろんな使い方でも有事に備えようという前向きな気持ちで対処したと

いうことで、ご理解をいただきたいと思います。確かにいろんな状況を想定してまで検討したかと言えばしていないと思います。決して安くない機械ですので、有効活用できるようにさらに取組んでまいりますのでご理解お願いいたします。

市民：霧ヶ峰の四賀ソーラー事業対策には日頃からご支援いただきありがとうございます。今の状況を簡単に説明いたします。3年ほど前からここから数キロのところに壮大な面積のソーラー発電所が計画されております。118ヘクタール、面積にしまして約1キロの2次の面積に31万枚のパネルを敷き詰めるというような計画がございまして、その所を私も3度ほど調査しましたが、非常に傾斜してその中には猛しき山がありまして、その表土を削って盛土をすると危険地帯でございます。そんなことから米沢5区が中心となりまして開発反対の運動を展開しております。今の状況ですが、全国に先駆けて長野県では環境影響評価が結成されました。茅野市はその準備書を出す段階になっておりまして、その中に住民の意見が反映されているか、茅野市長をはじめ諏訪市長、それをまとめた長野県知事の意見が反映されているか、それをやらなければならない状況でございます。1ヶ月と2週間という短期間で回答を出さなければいけないと追い込まれておりまして、その際は市の方からもご支援賜りたいと思いますのでよろしくをお願いいたします。企画書としましては、Loopソーラー対策協議会を立ち上げまして、継続してやっていくように取り組んでおります。今後ともご支援よろしくをお願いいたします。

市長：いろんな活動をしていただいておりますことに、市としても感謝申し上げます。今おっしゃられたように準備書の準備をしていることをお聞きしておりますが、計画では遅くなると聞いております。これには細かいところまで市としても意見を出しております。これがクリアできているかどうか厳しくチェックしていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。先ほどから「水」と話しておりますが、やはり「水」だと思います。5千年前に縄文人が飲んでいた水を5千年後も茅野市民が飲んでいなくてははいけない。その環境は残していなくてははいけない。それが今を生きる私共の責任かと思えます。ありがとうございました。

他にどうぞ。ございませんか。まだ時間はありますけれども、無理に絞り出すこともないかと思えます。また皆さんお疲れの中ご出席していただいておりますので、本年度のまちづくり懇談会はここで閉めさせていただきたいと思えますけれども、ぜひ米沢地区の魅力づくりは本当に大事なことだと思っております。皆さんにとっては当たり前のことであっても、これから生きていく子供達、また新たにくる人達に対して胸を張って米沢の良いところを発信していく、そんな取組にお力添えをいただければと思います。市も共になって魅力づくりに取り組んでまいりますので、よろしくをお願いいたします。

今日は貴重なお時間ありがとうございました。

企画部長：本日は皆様貴重なご意見、ご提言をいただきまして大変ありがとうございました。これでまちづくり懇談会を閉じさせていただきます。外は雨が強く降っておりますのでお気を



つけてお帰りいただきたいと思います。またお帰りの際にアンケートのご協力をよろしく願  
いいたします。本日は大変ありがとうございました。